



Cisco Unity Express 8.6 ソフトウェア インストールの概要

このガイドでは、Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールおよびアップグレードするための Cisco Unity Express CLI コマンドおよびグラフィカル ユーザ インターフェイス オプションのセットについて説明します。

『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』で説明されている管理タスクを実行する前に、このガイドのタスクと手順を使用します。



(注)

このガイドは、Cisco Unity Express のインストールまたはアップグレードに使用してください。シスコのルータおよびネットワーク モジュール、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express ルータのインストールについては説明していません。Cisco Unity Express のこのバージョンの最新情報については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.6](#)』を参照してください

この章は、次の項で構成されています。

- 「ライセンス システム」 (P.8)
- 「Cisco Unity Express 8.6 モジュールのサポート」 (P.8)
- 「新規ソフトウェア インストールのチェックリスト」 (P.9)
- 「Cisco Unity Express ソフトウェア アップグレードのタイプ」 (P.10)
- 「プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェアのイメージ」 (P.11)
- 「無停電電源装置の推奨」 (P.11)
- 「ソフトウェア ライセンスと工場設定の制限」 (P.11)
- 「その他の参照資料」 (P.12)

ライセンス システム

Cisco Unity Express 8.6 は、Cisco Software Licensing (CSL) システムをサポートします。CSL ライセンスでは、メールボックスと General Delivery Mailbox (GDM; 共用メールボックス) の両方がメールボックス ライセンスの数に含まれます。メールボックスのタイプは、設定時に決まります。また、コールエージェントは、これまでのようにライセンスを使って指定するのではなく、インストール後のプロセスの一部として起動中に設定するか、CLI または GUI を使用して設定できるようになりました。CLI または GUI を使用して設定した場合は、コール エージェントの設定が反映されるように、システムを再起動する必要があります。

CSL ライセンスの詳細については、本ガイドおよび『[Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』で説明しています。

Cisco Unity Express 8.6 モジュールのサポート

ここでは、Cisco Unity Express 8.6 モジュールのサポートについて説明します。説明する内容は次のとおりです。

- 「[SM-SRE-710-K9](#) および [SM-SRE-910-K9](#) に対するサポート。」 (P.8)
- 「[AIM2-CUE](#)、[NME-CUE](#)、および [SRE](#) モジュールの違い」 (P.8)

SM-SRE-710-K9 および SM-SRE-910-K9 に対するサポート。

Cisco Unity Express 8.6 には [SM-SRE-710-K9](#) および [SM-SRE-910-K9](#) Services Ready Engine (SRE) モジュールのサポートが追加されています。これらのサービス モジュールがサポートされるのは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限られます。このモジュールのスク립トとプロンプト用の容量、およびその他の仕様については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.6](#)』を参照してください。

通常、Cisco Unity Express アプリケーションは、これらのモジュールに工場ですべてプリインストールされています。ただし、ソフトウェアの再インストールが必要になる場合があります。詳細については、「[SRE モジュール上での Cisco Unity Express 8.6 ソフトウェアのインストール](#)」 (P.33) を参照してください。

AIM2-CUE、NME-CUE、および SRE モジュールの違い

Cisco Unity Express 8.6 は、Advanced Integration Module (AIM2-CUE) および拡張ネットワーク モジュール (NME-CUE) でサポートされます。AIM2-CUE は、AIM-CUE に置き換わるモジュールですが、マニュアルに明記されていない限り、両モジュールのソフトウェア機能およびシステム容量はすべて同じです。ISM-SRE および SM-SRE モジュールは、Cisco サービス統合型ルータ ジェネレーション 2 ルータ プラットフォームでのみ使用できます。



(注) AIM-CUE モジュールは、Cisco Unity Express 8.6 ではサポートされません。

Cisco Unity Express の機能は、次の例外を除いて、どのモジュールでも同じように動作します。

- 物理的な違い
 - AIM2-CUE は、最大 65 のボイス メールボックスと 14 時間のボイス メッセージを保存する 6 ポート モジュールです。
 - NME-CUE は、最大 275 のボイス メールボックスと 300 時間のボイス メッセージを保存する 24 ポート モジュールです。
 - ISM-SRE-300-K9 モジュールは、最大 100 のメールボックスと 60 時間のボイス メッセージを保存する 10 ポート モジュールです。このモジュールは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限りサポートされています。
 - SM-SRE-700-K9、SM-SRE-710-K9、SM-SRE-900-K9 および SM-SRE-910-K9 モジュールは、最大 500 のボイス メール ボックスと 600 時間のボイス メッセージを保存する 32 ポート モジュールです。これらのモジュールは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限りサポートされています。
- NME-CUE および SM-SREA で **trace** または **log** コマンドを使用すると、自動的にデータがディスクに保存されます。AIM2-CUE および ISM-SRE では、トレース データとログ データは、フラッシュ メモリに保存されません。データを AIM2-CUE および ISM-SRE のフラッシュ メモリに保存するための、**log trace buffer save** コマンドを使用できます。
- ハードウェア モジュールごとに、サポートするスクリプトおよびプロンプト用の容量が異なります。これらの容量については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.6](#)』を参照してください。

新規ソフトウェア インストールのチェックリスト

表 1 に、Cisco Unity Express の新規インストールのチェックリストを示します。

表 1 新規ソフトウェア インストールのタスク リスト Cisco Unity Express

チェックリスト	チェック
1. Cisco Unity Express ソフトウェア ライセンスをアクティブ化します。『 Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions 』を参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. Cisco Unity Express のインストールの準備としてシステムの前提条件を確認します。「 Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの前提条件 」(P.15) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
3. 「クリーン」インストールまたは以前のバージョンからのアップグレードを実行します。「 Cisco Unity Express 8.6 へのアップグレード 」(P.41) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
4. 「クリーン」インストールの場合は、「 Cisco Unity Express 8.6 ソフトウェアのインストール 」(P.23) に記載されているように Cisco Unity Express の必須コンポーネントを設定します。以前のバージョンからアップグレードする場合は、「 言語の追加または削除 」(P.27) に記載されているオプションの手順を実行してください。	<input type="checkbox"/>
5. 他のコンポーネントと加入者を設定します。『 Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions 』を参照してください。	<input type="checkbox"/>

Cisco Unity Express ソフトウェア アップグレードのタイプ

Cisco Unity Express ソフトウェアのアップグレードには、3 種類の方法があります。プラットフォーム、アップグレード前のバージョン、既存の設定データやボイスメール データを消去するかどうかによって、選択する方法が決まります。

全バージョンのリストおよび利用可能なアップグレード処理およびについては、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.6](#)』を参照してください。

ソフトウェア アップグレードの概要

アップグレード前の Cisco Unity Express のバージョンとプラットフォームによって、異なるソフトウェア アップグレード方法を使用できます。Cisco Unity Express 8.6 へのアップグレードには、次の方法がサポートされています。

- **software install upgrade** コマンドでオンライン インストーラを使用したアップグレード。具体的な手順については、『[既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.6 へのアップグレード](#)』(P.49) を参照してください。
- **software install clean** コマンドでオンライン インストーラを使用した「クリーン」インストールプロセスによるアップグレード。具体的な手順については、『[新規インストールでの Cisco Unity Express 8.6 へのアップグレード](#)』(P.43) を参照してください。
- ブートヘルパーを使用した「クリーン」インストール プロセスによるアップグレード。具体的な手順については、『[ブートヘルパーを使用した Cisco Unity Express イメージの再インストール](#)』(P.59) を参照してください。このアップグレード プロセスは主に、システムが正常に反応しない緊急時に使用することを推奨します。



注意

「クリーン」インストール プロセスを使用してアップグレードする場合、システム上の既存の設定ファイルは保持されません。システムで設定されているボイスメール、グリーティング、パスワードも失われます。

設定を保持するには、アップグレードを実行する前に既存の設定ファイルをバックアップし、アップグレード後にこれらを復元する必要があります。アップグレードの実行前に設定ファイルをバックアップしない場合、Cisco Unity Express を再設定する必要があります。

ソフトウェア アップグレードを計画する場合は、次の点を考慮してください。

- オンライン インストーラを使用してソフトウェアをアップグレードする場合、前のソフトウェアバージョンへのダウングレードはサポートされていません。
- Cisco Unity Express 7.1 よりも前のリリースからアップグレードする場合は、CSL 以前のライセンスから CSL ライセンスへの移行が必要です。詳細については、『[Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』を参照してください。



(注) Cisco Unity Express 7.1 よりも前のバージョンでは、特定のコール エージェント、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager Express に対してライセンスを購入していました。バージョン 7.1 以降では、ライセンスは両方のコール エージェントをカバーし、インストール プロセスの最中に特定のコール エージェントを選択します。

- システムで AIM-CUE モジュールを使用すると、ソフトウェアを Cisco Unity Express 8.6 にアップグレードする前に AIM module 7.4.1 モジュールをアップグレードする必要があります。
- サポートするパーソナル メールボックスが少ないライセンスへのダウングレードはサポートされていません。サポートするメールボックスを減らすようにシステムを変更する場合、大きなシステムで以前のバックアップを復元することはできないので、新しいライセンスを購入し、新規インストールを実行する必要があります。

プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェアのイメージ

Cisco Unity Express アプリケーションは、構造的に Cisco IOS ソフトウェアのコマンドと似たコマンドセットを使用します。しかし、Cisco Unity Express のコマンドが、Cisco IOS 設定に影響を与えることはありません。

Cisco Unity Express ハードウェア モジュールとプラットフォームでは、操作に Cisco IOS コマンドを使用します。

サポートされている Cisco Unity Express ソフトウェア イメージとハードウェア プラットフォームの詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.6](#)』を参照してください。

無停電電源装置の推奨

Cisco Unity Express モジュールを収容するルータには、Uninterruptible Power Supply (UPS; 無停電電源装置) を接続することを強く推奨します。信頼性の高い UPS ユニットは継続的に電源を供給して、ルータおよび Cisco Unity Express モジュールの動作を維持します。シスコのプラットフォームごとに消費電力が異なるので、ユニットの容量と動作時間を考慮してください。ルータに Cisco Unity Express を正しくシャットダウンさせてからルータの電源を切るシグナリング メカニズムを搭載した UPS を使用するようしてください。

ルータに次の設定を加えると、UPS デバイス (aux 0 に接続) への自動切り替えがサポートされます。



(注) 次の設定で、*slot* は Cisco Unity Express モジュールのスロット番号です。

```
line aux 0
privilege level 15
modem Dialin
autocommand service-module service-engine slot/0 shutdown no-confirm
```

ソフトウェア ライセンスと工場設定の制限

工場設定のシステム制限は、購入したライセンスによって決まります。システムの制限およびライセンス情報については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.6](#)』を参照してください。

この製品には、OpenSSL ツールキット (<http://www.openssl.org>) の使用に向けて OpenSSL プロジェクトで開発されたソフトウェアが含まれています。

Cisco Unity Express オープン ソース ソフトウェア ライセンスの詳細については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel7_1/Licensing/COSI_Licences.html を
 参照してください。

その他の参照資料

ここでは、Cisco Unity Express に関するその他のリファレンスについて説明します。

Cisco Unity Express 関連資料

関連トピック	文書タイトル
Cisco Unity Express ソフトウェア ライセンスのアクティブ化	『Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions』
Cisco Unity Express (Cisco Unity Express ハードウェアのマニュアルへのリンクを含む)	『Cisco Unity Express Documentation, By Version』

Cisco IOS 関連文書

関連トピック	文書タイトル
Cisco IOS の設定	『Cisco IOS Voice Configuration Library, Release 12.4T』 『Cisco IOS Voice Port Configuration Guide, Release 15.0』 『Dial Peer Configuration on Voice Gateway Routers, Release 15.0』 『Cisco IOS Debug Command Reference』 『Cisco IOS Voice Command Reference』
Cisco IOS 音声トラブルシューティング情報	『Cisco IOS Voice Troubleshooting and Monitoring Guide』

MIB

MIB	MIB リンク
<ul style="list-style-type: none"> • CISCO-UNITY-EXPRESS-MIB • CISCO-VOICE-CONNECTIVITY-MIB • CISCO-VOICE-APPLICATIONS-OID-MIB • CISCO-PROCESS-MIB • SNMPv2-MIB • IF-MIB • IP-MIB • SYSAPPL-MIB 	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャ セットに関する MIB を検索およびダウンロードするには、http://www.cisco.com/go/mibs にある MIB Locator を使用してください。</p>

RFC

RFC	タイトル
1869	<i>SMTP Service Extensions</i>
1893	<i>Enhanced Mail System Status Codes</i>
2045	<i>Multipurpose Internet Mail Extensions Part One: Format of Internet Message Bodies, RFC</i>
2421	<i>Voice Profile for Internet Mail - Version 2</i>
2821	<i>Simple Mail Transfer Protocol</i>
2833	<i>RTP Payloads for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals</i>
3261	<i>SIP: Session Initiation Protocol</i>
3501	<i>Internet Message Access Protocol - Version 4 rev1</i>
2327	<i>SDP: Session Description Protocol</i>
3263	<i>SIP: Session Initiation Protocol: Locating SIP Servers</i>
3264	<i>Offer/Answer Model With Session Description Protocol</i>
3265	<i>Session Initiation Protocol (SIP)-Specific Event Notification</i>
3515	<i>Session Initiation Protocol (SIP) Refer Method</i>
3842	<i>Message Summary and Message Waiting Indication Event Package for the Session Initiation Protocol (SIP)</i>
3891	<i>Session Initiation Protocol (SIP) "Replaces" Header</i>
3892	<i>Session Initiation Protocol (SIP) Referred-By Mechanism</i>

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクニカル サポートを受ける ・ソフトウェアをダウンロードする ・セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける ・ツールおよびリソースへアクセスする <ul style="list-style-type: none"> - Product Alert の受信登録 - Field Notice の受信登録 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索 ・Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する ・トレーニング リソースへアクセスする ・TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する <p>この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/techsupport</p>